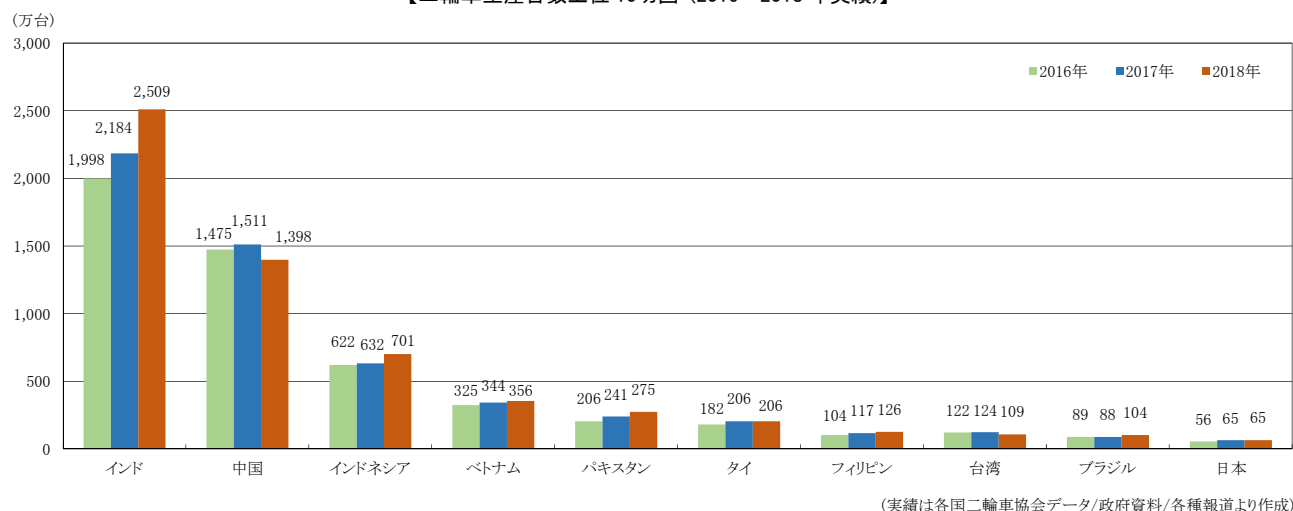


世界二輪車産業の現状と将来展望

世界20カ国の二輪車生産台数は、2015年から2016年にかけて5,400万台規模であったが、2017年に5,754万台、2018年に6,100万台へと拡大。FOURIN集計の世界二輪車販売台数と350万台前後の差があるが、同販売データに中近東諸国やロシアなどの国が含まれず、中国製二輪車がベトナムやフィリピンなどの販売統計に反映されていないことが要因。今後、二輪車生産は、南アジアの市場成長とともに拡大する見通しで、2020年代後半には7,000万台を超えることが予想される。このため、成長市場のインドを中心とする南アジアの生産比率は、2015年の37.2%から2018年に45.6%へと上昇、2030年には6割近くになると見られる。一方、市場が縮小する中国を中心とする東アジアの生産比率は、2015年の33.6%から2018年に25.8%へと低下、2030年には20%を割り込むことが予想される。メーカー別では、世界販売2,000万台のホンダが最大手で、世界生産の3分の1を占める。次いで、インド800万台生産のHero MotoCorpが2位、世界出荷台数500万台のヤマハが3位、インドで400万台前後を生産するBajaj AutoとTVS Motorsがそれに続く。ホンダ、ヤマハ、インドメーカー各社は、南アジア諸国での投資を拡大し、市場成長を見据えた生産体制の構築をめざす。大長江、力帆実業、隆鑫機車の中国メーカー主要3社は、国内市場縮小を輸出拡大や海外事業展開等でカバーするほか、収益性の高い上位モデルの開発・生産に注力する。

【二輪車生産台数上位 10 カ国 (2016~2018 年実績)】



【地域別二輪車生産台数 (2015~2018 年実績、2019~2030 年予測)】

